京都・長岡京跡(3)

1　所在地　京都府長岡京市久貝二丁目二一一他

2　調査期間　一九八二年（昭57）四月～五月

3　発掘機関　長岡京市教育委員会

4　調査担当者　岩崎　誠

5　遺跡の種類　都城跡

6　遺跡の年代　平安時代（八世紀末）

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、宅地開発に伴い、長岡京跡右京第九四次（7ANQUD地区）調査として実施したものである。平城京型条坊復元では、右京八条一坊九・十六町にあたる。調査地は東部と西部に分かれている。

（京都西南部）

この調査では東部に長岡京期の柵列と掘立柱建物が検出された。西部には河川流路（SD九四〇八）が検出された。この流路は、幅約七m、深さ約〇・六mで、長さ二三mまで検出した。この流路には、弥生時代から鎌倉時代までの包含層が認められた。長岡京期の遺物包含層中には、木簡やヘラ状木製品の他、須恵器、土師器が少量出土した。

8　木簡の釈文・内容

×□□□　□」　　(99)×(8)×4　019

墨書の面は、刀子による削り跡を明瞭に残す。上部が最も薄く、下末端が最も厚い。数度にわたって使用されたものと思われる。

上端が欠損し、縦にも半截されているため、文字は判読できない。しかし、現在のところ長岡京内では木簡発見地の最南端であり、右京八条一坊十六町近辺の土地利用を推測する上で貴重な資料である。

9　関係文献

岩崎誠「長岡京跡右京第94次（7ANQUD地区）調査概要」（長岡京市教育委員会『長岡京市文化財調査報告書』第一一冊一九八三年）

（岩崎　誠）